

GA-8SRX  
P4 Titan マザーボード

## ユーザーズマニュアル

Pentium®4 プロセッサマザーボード  
Rev. 1.0 第2版

## 目次

バージョン履歴	4
項目チェックリスト	4
警告!	5
第1章 はじめに	6
機能の概要	6
GA-8SRXマザーボードのレイアウト	8
第2章 ハードウェアの取り付けプロセス	9
ステップ1: 中央処理装置(CPU)の取り付け	10
ステップ 1-1: CPUの取り付け	10
ステップ 1-2: CPUヒートシンクの取り付け	11
ステップ2: メモリモジュールの取り付け	12
ステップ3: 拡張カードの取り付け	13
ステップ4: リボンケーブル、キャビネット、ワイヤ、電源装置の接続	14
ステップ 4-1: I/O背面パネルの概要	14
ステップ 4-2: コネクタの概要	16
第3章 BIOSのセットアップ	22
メインメニュー(例えば: BIOS Ver. :F1)	23
標準のCMOS機能	25
拡張BIOS機能	28
拡張チップセットの機能	31
統合周辺装置	33
省電力のセットアップ	37

---

## 目次

プラグアンドプレイPCI設定 .....	40
PCヘルスステータス.....	42
周波数/電圧コントロール.....	44
フェールセーフデフォルトの読み込み.....	46
最適化されたデフォルトの読み込み.....	47
管理者/ユーザー/パスワードの設定.....	48
保存して閉じるセットアップ .....	49
保存せずに閉じる .....	50
 第4章 技術レファレンス.....	51
ブロック図.....	51
デュアルBIOS/Q-フラッシュの概要.....	52
SPDIFの概要 .....	60
@ BIOS™ の概要 .....	62
 第5章 付録 .....	63

## バージョン履歴

バージョン	バージョンメモ	日付
1.0	GA-8SRXマザーボードユーザーズマニュアルの第1版	2001年12月
1.0	GA-8SRXマザーボードユーザーズマニュアルの第2版	2001年12月

## 項目チェックリスト

- The GA-8SRXマザーボード
- IDEケーブル x 1 / フロッピーケーブル x 1
- マザーボードドライビューティリティ用 CD(TUCD)
- GA-8SRXユーザーズマニュアル
- クイックPC取り付けガイド

## 警告!



コンピュータのマザーボードと拡張カードには、きわめて精巧な集積回路(IC)チップが組み込まれています。これを静電気の破壊から保護するために、コンピュータを使用するときは常に下記の点に注意を払う必要があります。

1. 内部作業をするときはコンピュータのプラグを抜く。
2. コンピュータのコンポーネントを処理する前に、アースされたリストラップを使用する。これをお持ち出ない場合は、両手を安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの金属製物体に触れてください。
3. マザーボードを持つときは両端をつかみ、ICチップ、リード線やコネクタ、または他のコンポーネントに触れないようにしてください。
4. コンポーネントをシステムから切り離すときはいつでも、コンポーネントを、アースされた静電気防止パッドまたはコンポーネントに付属する袋の上に置いてください。
5. マザーボードのATX電源コネクタを差し込むまたは抜く前に、ATX電源装置のスイッチをオフにしていることを確認してください。

### マザーボードをシャーシに取り付ける。

マザーボードに取り付け穴が付いているが、台の穴に一列にそろっていない場合、またスペーサーを取り付けるスロットがない場合でも、心配するには及びません。スペーサーを取り付け穴に接続することはできます。スペーサーの下部分を切り取ってください（スペーサーは堅いので、指を傷つけないように注意してください）。こうすればショートの心配をせずに台にマザーボードを取り付けることができます。回路の線が穴のすぐ傍にあるため、マザーボードのPCB面からネジを絶縁するために、プラスチック製スプリングを使用する必要が生じる場合もあります。ネジは、固定穴の傍にあるプリント回路やPCBの部分に触れないように、注意してください。そうでないと、ボードが破損したり、ボードが誤動作を起こすことがあります。

## 第1章 はじめに

### 機能の概要

フォームファクタ	• 30.4cm x 22.4cm ATXサイズのフォームファクタ、4層PCB。
CPU	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel® Micro FC-PGA2 Pentium® 4用のSocket 478</li> <li>• Intel Pentium®4 400MHz FSB</li> <li>• 2ndレベルのキャッシングはCPUに依存します</li> </ul>
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SiS 645ホスト/メモリコントローラ</li> <li>• SiS 961 MuTIOLメディアI/O</li> </ul>
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3 184 ピン DDR DIMM カット</li> <li>• DDR333/DDR266/200 SDRAMのサポート</li> <li>• 2つのノンリフアなDIMM DDR333まで、または3つのノンリフアなし両面DIMM DDR266/200までサポート</li> <li>• 3GB DRAM (最高)までサポート</li> <li>• 2.5V DDR DIMMのみをサポート</li> <li>• 64ビットECC タイプDRAM統合化モードをサポート</li> </ul>
I/Oコントロール	• IT8705
スロット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つのユニバーサルAGPスロット(1X/2X/4X)デバイスのサポート</li> <li>• 6つのPCIスロットが33MHz &amp; PCI 2.2準拠をサポート</li> </ul>
オンボードHDE	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最高4つのATAPIデバイス用の、2つのIDEバスマスター(DMA33/ATA66/ATA100) IDEポート</li> <li>• PIOモード3,4 (UDMA 33/ATA66/ATA100) IDE &amp; ATAPI CD-ROMをサポート</li> </ul>
オンボード周辺装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つのフロッピーポートが360K、720K、1.2M、1.44M、2.88M/マイトの2 FDDをサポート。</li> <li>• 1つのパラレルポートが標準EPP/ECPモードをサポート</li> <li>• 2つのシリアルポート(COMA&amp;COMB)</li> <li>• 6つのUSBポート(背面USB x 2、Front USB x 2、USB AGP x 1、USB CNR x 1)</li> <li>• IR用の1つのIrDAコネクタ</li> </ul>

続く.....

## はじめに

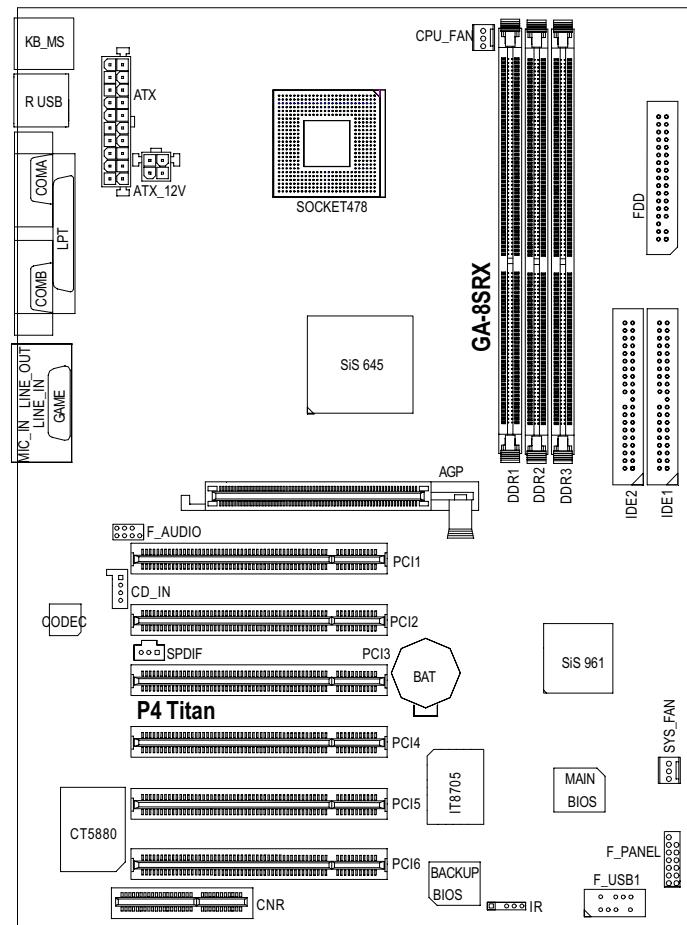
---

オンボードサウンド	<ul style="list-style-type: none"><li>• Creative CT5880サウンドチップセット</li><li>• オーディオCODEC</li><li>• ラインイン/ラインアウト/Mic In/CD In/ゲームポート</li></ul>
PS/2コネクタ	<ul style="list-style-type: none"><li>• PS/2キーボードインターフェイスとPS/2マウスインターフェイス</li></ul>
BIOS	<ul style="list-style-type: none"><li>• 認可を受けたAWARD BIOS、2MビットFlash ROM</li><li>• デュアルBIOSのサポート</li></ul>
追加機能	<ul style="list-style-type: none"><li>• パスワードによるPS/2キーボードの電源オン</li><li>• PS/2マウスの電源オン</li><li>• STR(RAMに対するススペンド)</li><li>• S3からUSB KB/マウスの呼び起し</li><li>• @BIOSのサポート</li></ul>

---

●\* コンピュータの使用に従ってCPU ホスト周波数を設定して下さい。CPU の仕様を超えてシステムのバス周波数を設定することは、これらの特定なバス周波数がCPU、チップセットおよびほとんどの周辺装置の標準仕様ではないため、お勧めしません。お使いのシステムがこれらの特定なバス周波数の元で適切に動作できるかどうかは、CPU、チップセット、DDR、SDRAM、カードなどを含み ハードウェア設定によって異なります。

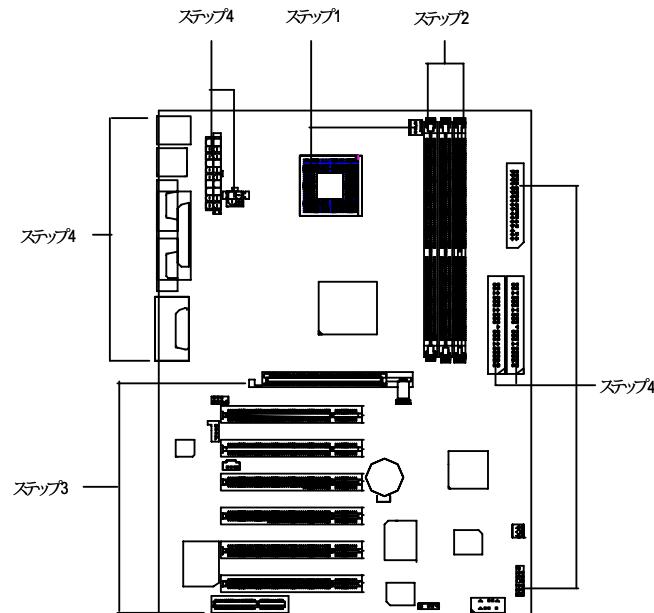
## GA-8SRXマザーボードのレイアウト



## 第2章 ハードウェアの取り付けプロセス

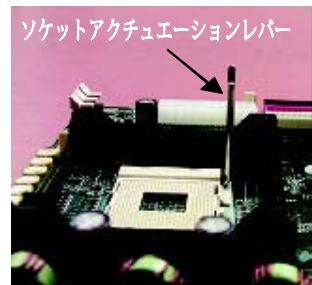
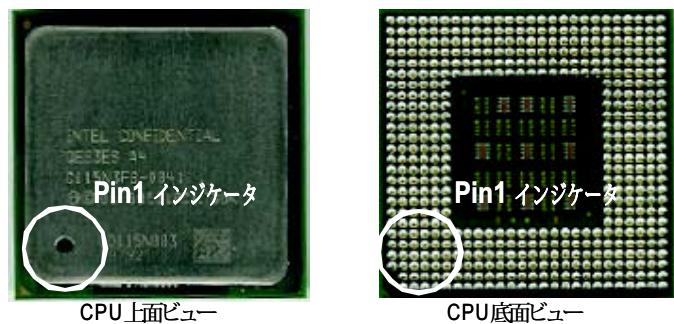
コンピュータをセットアップするには、以下のステップを完了する必要があります。

- ステップ1 - 中央処理装置(CPU)の取り付け
- ステップ2 - メモリモジュールの取り付け
- ステップ3 - 拡張カードの取り付け
- ステップ4 - リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続
- ステップ5 - BIOSソフトウェアのセットアップ
- ステップ6 - サポートするソフトウェアツールのインストール



## ステップ1: 中央処理装置(CPU)の取り付け

### 手順1-1: CPUの取り付け



1. CPUのソケットレバーを90度の角度まで引き上げます。
2. ソケットのPin1を見つたらCPUの上隅の(金色の)カットエッジを確認します。それから、CPUをソケットに差し込みます。
3. CPUのソケットレバーを押し下げ、CPUの取付けを完了します。

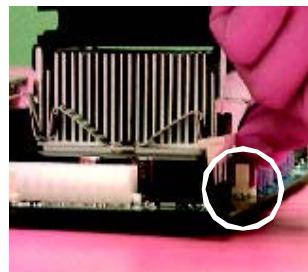


- ※ CPUのタイプがマザーボードでサポートされていることを確認してください。
- ※ CPUソケットのPin1とCPUのカットエッジがうまくマッチしないと、取り付けは正しく行われません。挿入方向を変えてください。

## ステップ1-2: CPU ヒートシンクの取り付け



1. ヒートシンクのサポート台をメイ  
ンボードのCPU ソケットに固定  
します。



2. CPU ファンがCPU のファンコネ  
クタに差し込まれていることを  
確認して、取付けを完了しま  
す。

- ✿ Intel公認のクーリングファンをお使いください。
- ✿ CPUとヒートシンクの熱伝導を良くするために、感熱糊を使用するようにお  
勧めします (CPUクーリングファンは感熱糊の硬化によってCPUにくっつい  
しまうことがあります。この状態のとき無理にクーリングファンを取り外そうとす  
ると、クーリングファンと共にCPUソケットからプロセッサを引きはがし、その結  
果プロセッサを損傷することがあります。これを避けるために、感熱糊の代  
わりに感熱テープを使用するか、最新の注意を払ってクーリングファンを取  
り外すようにお勧めします)。
- ✿ CPU ファンの電源ケーブルがCPU のファンコネクタに差し込まれていることを  
確認すると、これで取り付けは完了です。
- ✿ 取り付け手順の詳細については、CPU ヒートシンクのユーザーズマニュア  
ルを参照してください。

## ステップ2:メモリモジュールの取り付け

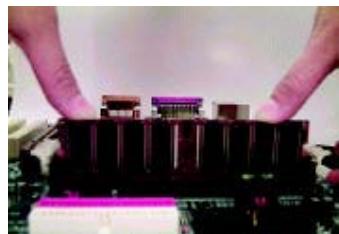
マザーボードには3つのデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが搭載されています。BIOSはメモリのタイプとサイズを自動的に検出します。メモリモジュールを取り付けるには、DIMMスロットに垂直に押し込みます。DIMMモジュールは、ノッチにより1方向にしかフィットしません。メモリサイズはソケットにより異なります。

ノッッフルなDDR DIMMを搭載した総メモリサイズ

DIMM上で使用されるデバイス	1 DIMM x 64 / x 72	2 DIMMs x 64 / x 72	3 DIMMs x 64 / x 72
64 Mbit (2Mx8x4) シング	128 MBytes	256 MBytes	768 MBytes
64 Mbit (1Mx16x4) シング	32 MBytes	64 MBytes	96 MBytes
128 Mbit(4Mx8x4) シング	256 MBytes	512 MBytes	768 MBytes
128 Mbit(2Mx16x4) シング	64 MBytes	128 MBytes	196 MBytes
256 Mbit(8Mx8x4) シング	512 MBytes	1 GBytes	1.5 GBytes
256 Mbit(4Mx16x4) シング	128 MBytes	256 MBytes	384 MBytes
512 Mbit(16Mx8x4) シング	1 GBytes	2 GBytes	3 GBytes
512 Mbit(8Mx16x4) シング	256 MBytes	512 MBytes	768 MBytes



DDR



1. DIMMスロットにはノッチがあるため、DIMMメモリモジュールは1方向にしかフィットしません。
  2. DIMMメモリモジュールをDIMMスロットに垂直に差し込んだ後に、押し下してください。
  3. DIMMスロットの両端にあるプラスチックのクリップを開じて、DIMMモジュールをロックします。
- DIMMモジュールを取り外す時は、取り付け手順を逆に行います。

※ DIMMモジュールは1つのノッチにより1方向にしかフィットしないことにご注意ください。間違った方向に差し込むと正しい取り付けは行われません。差し込む方法を変更してください。

### ステップ3:拡張カードの取り付け

1. 拡張カードをコンピュータに取り付ける前に、関連する拡張カードの取扱説明書をお読みください。
2. コンピュータから、コンピュータのシャーシカバー、ネジおよびスロットブラケットを取り外します。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかりと押し込みます。
4. カードの金属接触部がスロットに確実に収まっていることを確認します。
5. ネジを取り付けて、拡張カードのスロットブラケットを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを再び取り付けます。
7. 必要に応じて、コンピュータの電源をオンにし、BIOSから拡張カードのBIOSユーティリティをセットアップします。
8. オペレーティングシステムから関連ドライバをインストールします。



AGPカード



AGPカードを取り付けたり取り外す時は、AGPスロットの端にある小さな白い、引き出し可能なバーを注意深く引き出してください。AGPカードをオンボードAGPスロットに合わせ、スロットにしっかりと押し込みます。AGPカードが小さな白い、引出し可能なバーによってロックされていることを確認します。

### CNRを取り付けるときの注意点

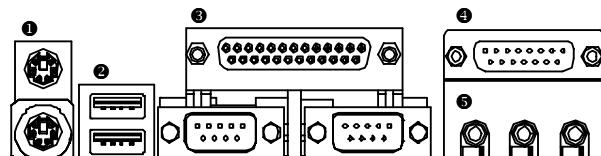
機械的な問題を避けるために、下図のような標準のCNRカードをお使いください。



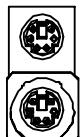
標準のCNRカード

## ステップ4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続

### ステップ4-1: I/O背面パネルの概要



#### ② PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ



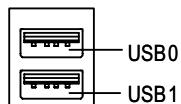
PS/2マウスコネクタ  
(6ピンメス)

➤ このコネクタは標準のPS/2キーボードとPS/2マウスをサポートします。



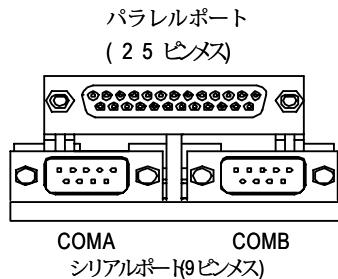
PS/2キーボードコネクタ  
(6ピンメス)

#### ③ USBコネクタ



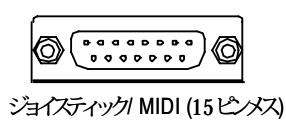
➤ デバイスをUSBコネクタに接続する前に、USBキーボード、マウス、スキャナ、ZIP、スピーカーなどのデバイスを確認してください。標準のUSBインターフェイスを使用してください。お使いのOS (USB サブリメント付きのWin 95、Win98、Windows 2000、Windows ME、SP 6を装備したWin NT) がUSBコントローラをサポートしているかも確認してください。OSがUSBコントローラをサポートしていない場合、OSベンダーに連絡してパッチまたはドライバのアップグレード入手してください。詳細については、OSまたはデバイスのベンダーにお問い合わせください。

③ パラレルポートとシリアルポート(COMA/COMB)



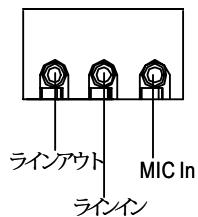
➤ このコネクタは2つの標準COMポート、1つのパラレルポートをサポートします。プリンタのようなデバイスは、パラレルポートに接続することができます。マウスやモデムなどは、シリアルポートに接続することができます。

④ ゲーム/MIDIポート



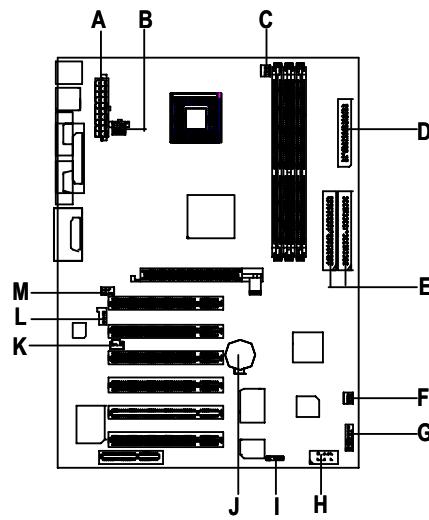
➤ このコネクタはジョイスティック、MIDIキーボードおよびその他の関連オーディオデバイスをサポートします。

⑤ オーディオコネクタ



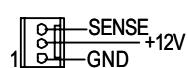
➤ オンボードオーディオドライバをインストール後、スピーカーをラインアウトジャックに、マイクをMIC INジャックに、CD-ROM、ウォークマンなどのデバイスをラインインジャックに接続することができます。

### ステップ4-2:コネクタの概要



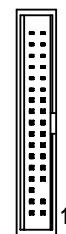
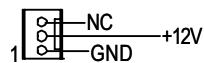
A) ATX	H) F_USB1
B) ATX_12V	I) IR
C) CPU_FAN	J) BAT
D) FDD	K) SPDIF
E) IDE1/IDE2	L) CD_IN
F) SYS_FAN	M) F_AUDIO
G) F_PANEL	

**C)CPU\_FAN (CPUファンコネクタ)**

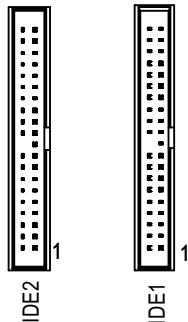


➤ CPU が異常状態の下で動作したり過熱によって損傷することを避けるために、CPU クーラーを正しく取り付けることは不可欠です。CPU ファンコネクタは最高600mAまでの電流をサポートします。

**F)SYS\_FAN (システムファンコネクタ) D)FDD(フロッピーコネクタ)**

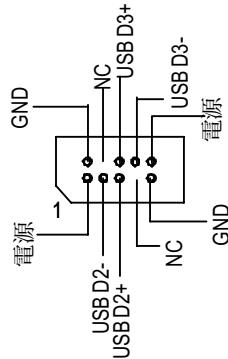


**E)IDE1/IDE2[IDE1 / IDE2コネクタ(プライマリ/ セカンダリ)]**



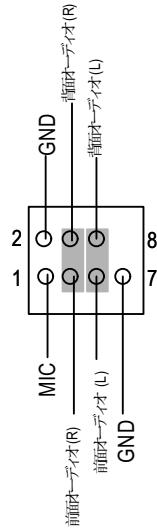
➤ 重要な通告:  
まずハードディスクをIDE1に接続した後に、CDROMをIDE2に接続してください。

**H) F\_USB1 (前面 USB)**



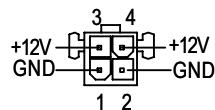
➤ 前面パネルUSBコネクタの土の向きに注意してください。前面パネルUSBケーブルを接続している間、ピン割り当てをチェックしてください。オプションの前面パネルUSBケーブルについては、最寄りの販売店にお問合せください。

**M) F\_AUDIO (前面オーディオ)**



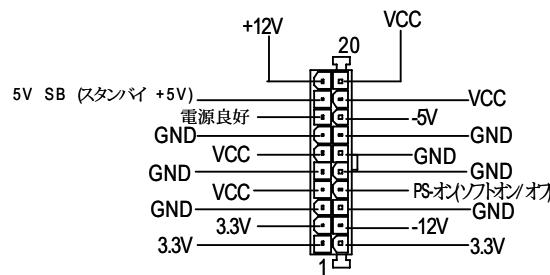
➤ "前面オーディオ"コネクタを使用する場合、3-4、5-6ジャンパーを移動する必要があります。前面オーディオヘッダを利用するには、シャーシに前面オーディオコネクタが搭載されている必要があります。また、ケーブルのピン割り当てがMBヘッダ上のpin割り当てと同じであることも確認してください。お求めのシャーシが前面オーディオコネクタをサポートしているかどうかを確認するには、販売店にお問合せください。

**B) ATX\_12V (+12V電源コネクタ)**



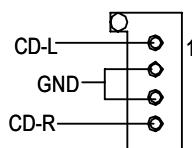
➤ このコネクタ(ATX+12V)はCPUコア電圧に  
対してのみ使用できます。

**A) ATX (ATX電源)**

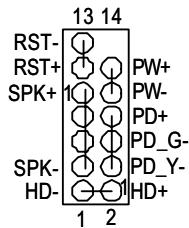


➤ AC電源コードは、ATX電源ケーブルと他の関連デバイスマインボードにしっかりと接続し  
た後にのみ、電源装置に接続することができます。

**L) CD\_IN (CDオーディオラインイン)**



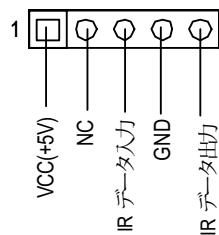
## G) F\_PANEL (2x7ピンコネクタ)



HD(IDE ハードディスクアクティブ LED)	ピ1: LED陽極(+) ピ2: LED陰極(-)
SPK (スピーカーコネクタ)	ピ1: VCC(+) ピ2- ピ3: NC ピ4: データ-)
RST (リセットスイッチ)	開く 標準操作 閉じる: ハードウェアシステムのリセット
PD+/PD_G-/PD_Y-(電源LED)	ピ1: LED陽極(+) ピ2: LED陰極(-) ピ3: LED陰極(-)
PW (ソフトの電源コネクタ)	開く 標準操作 閉じる: 電源オン/オフ

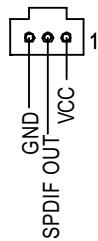
➤ シャーシフロントパネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを、上のピン割り当てに従って、F\_PANELコネクタに接続してください。

I) IR (IRコネクタ)



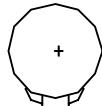
- IRに接続している間、IRコネクタの土の向きに注意してください。オプションのIRデバイスについては、最寄りの販売店にお問い合わせください。

K) SPDIF (SPDIF)



- SPDIF出力は、デジタルオーディオを外部スピーカーに、または圧縮されたAC3デ21ータを外部Dolby Digital Decoderに提供することができます。この機能は、お使いのステレオシステムがデジタル出力機能を備えているときのみご使用になれます。

J) BAT (バッテリ)



**CAUTION**

- ❖ バッテリを間違った向きに入れる  
と、爆発する恐れがあります。
- ❖ メーカーが推奨するタイプのバッテリと同じ、または同等品とのみ交換してください。
- ❖ メーカーの指示に従って、使用済みバッテリを処分してください。